

救急科・集中治療科

救急科統括部長 本間 洋輔

集中治療科統括部長 立石 順久

1 部門目標

- ・救急科専門医が、救急外来（ER）ですべての救急患者の初期診療に対応する。
- ・内科系・外科系を問わずあらゆる救急疾患に対し適切な初期診療を提供し、他科と協力して治療にあたる。
- ・断らない救急を目標とし、千葉市の救急医療体制に貢献する。
- ・救急外来診療を通じて初期研修医教育の充実を図る。

2 業務体制・スタッフ

- ・救急科専従医：織田成人、本間洋輔、立石順久、石丸忠賢、國谷有里
- ・救急科スタッフ（兼任）：川名秀俊、加藤真優
- ・非常勤医：千葉大学医学部附属病院救急科医師
東京ベイ浦安市川医療センター救急科医師
- ・初期臨床研修医：1～3名
- ・病院救命士：2名

3 業務実績

	令和3年度	令和4年度
救急科受け入れ患者数	1885	2806
帰宅	1249	2047
入院	510	668
他院へ搬送	126	98

救急搬送件数

	平成31年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
小児	1464	1716	1127	1586	2329
成人	1784	3046	2680	2791	3287
合計	3248	4762	3807	4377	5616

MET 対応件数

令和3年度	47件
令和4年度	52件

集中治療室利用状況

		令和 3 年度	令和 4 年度
入室患者数		380	448
	外来から	258	334
	病棟/OR から	112	98
診療科			
	救急科	32	127
	循環器内科	104	126
	小児科	59	74
	心臓血管外科	38	44
	内科（含消化器）	92	42
	産科	18	14
	外科	24	12
	脳神経外科	0	6
	その他（泌尿器科、耳鼻科など）	13	2
人工呼吸器（人）		52	83
NPPV/HFNC（人工呼吸器併用除く）		57	33
血液浄化		13	24
COVID-19		83	82
転帰			
	転棟		329
	軽快退院		74
	死亡退院		26
	上り転院		13
	下り転院		6

4 1年間の総括

今年度は新たに専従として救急科専門医・指導医が1名、救急科専門医が2名加わったことで、さらにER業務の安定化を図ることができた。また新たに集中治療科を立ち上げ、ICU入室システムの改善とともに病棟管理もできるようになった。増員できたことでER、ICUにそれぞれ日中担当医を配置することができ、ER、ICUの安定した管理ができるようになったことに加え、救急医による当直を週に2回、一部ではあるが診療時間を21時まで延長する日をもうけることで受け入れ時間帯の拡大をすることができた。コロナ禍であり病院全体の機能として受け入れ制限をせざるを得ない部分もあったものの、それでもERでの救急受け入れ、ICUでの入院患者管理を増加することができた。東京ベイ浦安市川医療センター救急科および千葉大学医学部附属病院救急科から、救急専従医がそれぞれ週1～2回手伝いに来るようになり、診療体制はさらに安定し、ベッドサイド教育はいわゆる屋根瓦式の教育ができるようになった。スタッフの中に研修医の教育担当を配置し、毎週1回の症例振り返りカンファレンスの開催、他病院との合同オンライン勉強会への参加ができるようになり教育体制が充実した。

また、新規に病院救命士を雇用し、部門内でのタスクシフトを実施するとともに、病院救命士が運転する病院救急車による患者搬送を試験的に試行することができた。

5 今後の目標

- ・スタッフを増員することでライフワークバランスを維持した上で、ERの対応時間をさらに拡大していく。
- ・ICUに集中治療管理に長けた医師が常駐できるようにシステム整備をすすめる
- ・病院救命士を増員することでタスクシフトを進め、さらに市民にとって頼られる救急外来を構築していく